

## 古着回収で得た資金はこんなことに活用されています

先生のお給料



教科書や文具の購入



子どもたちの給食



スタッフ現地レポート

### 「厳しい環境の中で、素敵な連鎖を起こしている活動です」

アル・カイルアカデミーを訪問した最初の印象は、明るい子どもたちの笑顔でした。外国人はめずらしい様子で、休み時間になると興味津々な顔で「遊ぼう!」と教室に招き入れてくれました。その元気な様子は、日本の子どもたちと何も変わりません。一方で、校舎内は打ちっぱなしのコンクリートの部屋に黑板のみ。床に布を敷いただけで照明も机や椅子もない教室がほとんどの質素な環境でした。しかし子どもたちの勉強する姿勢はとても真剣。

それは自分の意思に関係なく、突然勉強ができなくなることがめずらしくないからかもしれません。実際、家の手伝いや家計を支えるために働かなくてはなくなり、退学する子どもも少なくないのだそうです。

これまでの支援によって、アル・カイルアカデミーでは10校目となる校舎の建設をしています。宗教上の理由で男性と別環境で学ぶことを望む家庭も多く、年頃を迎えた女の子もその家族も安心して通わせられるように、この10校目の校舎は女子校になる予定です。

このような持続的な挑戦は、送っていただいた古着を元にした資金などで支えられています。不要となった古着がパキスタンに送られ、その古着を売った資金で子どもたちが学び、そしてその子どもがまた次の世代を育てる親や先生になる連鎖を目の当たりにしました。この素敵な連鎖がさらに大きく広がり、子どもたちの笑顔が未来に繋がることこそが、この活動を続けていく意義であると深く感じました。

(オイシックス・ラ・大地 豊後愛美)



### NPO法人 JFSAが この活動を行っています



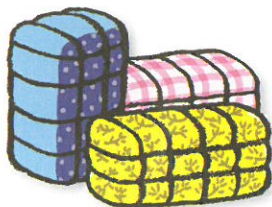
JFSA(日本ファイバーリサイクル連帯協議会)

1993年に不登校児らとリサイクルショップを経営していたスタッフが、パキスタンの人々と出会ったことからこの活動が始まりました。古着の回収、選別、パキスタンへの送り出しなど、アル・カイルアカデミーの運営をサポートしています。

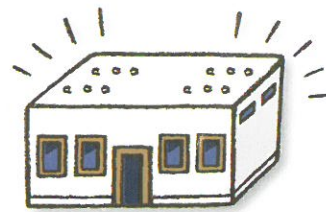
※日本(千葉市・柏市)では古着の販売も行っています。



8割は船便でパキスタンへ



パキスタン国内で現金化



学校の運営費に活用